

2011年度 幼児期の命の教育について～実践の現状と課題～（叶内茜）

幼児期の命の教育について ～実践の現状と課題～

教育学研究室 橋本紀子教授
栄養科学専攻 叶内 茜

命の教育とは

命の教育には、

人間の性
についての
「性教育」

生きる教育の
「生教育」

の2つがある。

今回研究の対象とした幼児期では、
当初の研究テーマであった「性教育」と題した取り組みの
中で、幅広く生命に関する事項を取り上げていたため、
総括して「**命の教育**」とし、研究を行った。

研究背景

- 近年、児童相談所に寄せられる虐待の相談件数は年々増加傾向。
- 特に幼児では、親が子育てについて焦りや戸惑いを感じることが増え虐待につながると考えられる。
- 幼児をとりまく性被害も問題となっている。



- 子どもたちの自我が芽生える時期に「命（生・性）」について教えることで、子どもたちは自然な形で性について受け入れられるのではないかな？
- 子どもを通して養育者である大人たちが命について改めて考える機会となるのではないかな？

目的

- 幼児期の命の教育はどのような意味を持つのか
- 実際に園でどのような取り組みが行われているのかを明らかにする。

作業課題

- ① 幼児をめぐる先行研究と情報の把握
- ② 幼稚園・保育所における参与観察
- ③ 命の教育（生教育・性教育）実践についての考察

方法

- 1) 関連資料及び文献の収集と検討
- 2) 園児の自由遊びの様子を観察
- 3) 園での命の教育実践の参観
- 4) 園の担当者への聞き書き調査、質問紙調査

作業課題① 幼児をめぐる先行研究 と情報の把握

先行研究の検討

- ハンプソン(1965)
「幼児期は、自分の性別を認識していく時期である。」
- 朝山(1967)
「幼年期の子どもがする、自分の誕生についての質問にどう答えるかは、のちの性教育の成功を開く最初の鍵である。」
- 及川(1998)
「性教育は人格の完成を目指す人間教育である。」

⇒ **幼児期の命の教育の必要性**

幼稚園教育要領・保育所保育指針 からみる命の教育の可能性

両者ともに
「性教育」「生教育」
という
具体的な言葉はない!!

⇒それぞれの「ねらい及び内容」から
「命の教育」に該当する項目を検討。

幼稚園教育要領

- 健康
- 人間関係
- 環境
- 言葉
- 表現

保育所保育指針

- 健康
- 人間関係
- 環境
- 言葉
- 表現

⇒「性教育」「生教育」の記載はないが、命の教育と関連する内容はみられた。

国が発行する 性教育の指導書について

文部科学省(1999年)

『学校における性教育の考え方、進め方』

⇒幼稚園における性教育の目標及び指導内容が記載されている。

<特徴>

- 男女の体の違い
- 性別の自認



行政の取り組み

行政で取り組みが行われていることが確認できた札幌市と愛媛県について、教育委員会が発行した性教育の指針をもとに考察を行う。

札幌市

「性教育の手引き」

札幌市教育委員会
指導室編集指導資料

愛媛県



札幌市

- ア：体の発育・発達
に伴う性教育の指導内容
- イ：心理的な発達
に伴う性教育の指導内容
- ウ：男女の人間関係
から見た性教育の指導内容
- エ：社会的な面
から見た性教育の指導内容

愛媛県

- ア：自己の性の認識
を確かにするために必要な内容
- イ：男女の人間関係の育成
に必要な内容
- ウ：家庭や社会の一員として
必要な性
に関する内容

⇒いずれも文部科学省が発行する
「学校における性教育の考え方、進め方」
を参考にした内容となっている。

作業課題② 幼稚園・保育所 における参与観察

参与観察(日常の様子)

- さいたま市「幼児教育センター附属幼稚園」
⇒年齢別のクラス(今回は3・5歳児を観察)
- 秋田県横手市「むつみ保育園」
⇒異年齢児保育(3～5歳児合同クラス)



2つの園の子供たちの日常の様子から、

- 命の教育の必要性はあるか
- 一斉指導が可能であるか

を考察する。

参与観察の結果

<命の教育の必要性はあるか>

3歳児

プールの着替え時、
恥ずかしがっている
様子はみられない。
性に関して関心がない。

4歳児

性に関する興味
は薄い。

5歳児

遊びの中で、性
に関する言葉を
面白がって使う。

⇒特に5歳児での命の教育が必要

<一斉指導が可能であるか>

3歳児

一斉指導は難しい

4歳児

短い内容のものであれば可能

5歳児

一斉指導が可能

授業参観①

愛知県名古屋市「けやきの木保育園」

- 園の看護師が3年前より命の教育の授業を実践。
- 子どもの現状から性教育が必要だと考え、実施。

<年間計画>

実施回	実施月	実施内容(タイトル)
第1回	6月	プライベートゾーンのはなし
第2回	3月	おおきくなったよこびい(いのちのはなし)

プライベートゾーンのはなし

＜対象＞4歳児クラス

＜内容＞

- 大切なところはなぜ隠すのか？
- 男女の体の違いを知る
- からだを清潔に保つ
- 性被害から身を守る



けやきの木保育園

良い点

- 4歳児クラスでの実施
⇒性に興味を持ち始める前に、正しい知識を伝えられる。
- 園の看護師が実施
⇒園の実態を踏まえたテーマ設定ができる。
- 指導者が園に常勤
⇒子どもたちの日常の様子がわかる。
⇒クラスの保育士など、園の職員と連携をとりやすい。

課題点

- 4歳児クラスでの実施
⇒集中力が続かず、15分程度の授業が限界。
- 看護師が実施
⇒子どもの興味を引きつけるための工夫が少ない。
- 園の他の職員の知識不足
⇒園の他の職員が性教育の指導について学ぶ機会はない。

授業参観② 秋田県横手市「むつみ保育園」

- 横手市地域保健センターの職員が2年前より授業を実施。
- “自分を愛し、自分を信じることのできる子”を育てる。

＜年間計画＞

実施回	実施月	実施内容（タイトル）
第1回	6月	かおのひみつ
第2回	7月	からだに必要なこと（栄養）
第3回	8月	からだのひみつ（骨・筋肉）
第4回	9月	からだのひみつ（成長）
第5回	10月	プライベートゾーン
第6回	11月	赤ちゃんの誕生とお部屋の様子
第7回	12月	「生まれた！」体験＆赤ちゃんを抱っこしてみよう
第8回	1月	知らないひとについていかない（話）
第9回	2月	知らないひとについていかない（ロールプレイ）
第10回	3月	フリートーキング

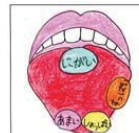
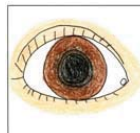
かおのひみつ

＜対象＞

5歳児クラス

＜内容＞

- 顔にはどんなパーツがあるかを知る
- それぞれのパーツがどのような働きをしているかを知る
- 一人ひとりみんな顔が違うが、それぞれが大切な働きをしているので、自分のことも、お友達のこと大切にする



むつみ保育園

良い点

- 5歳児クラスでの実施
⇒最後まで集中して授業に参加できる。（30分）
- 保健センターの職員が実施
⇒豊富な知識を持っている。
⇒他の保育所でも性教育を行っているため、教材研究がしっかり行われている。
⇒子どもたちは緊張感を持って授業を受けられる。

課題点

- 保健センターの職員が実施
⇒一人ひとりの子どもたちの特徴をつかむことが難しい。
⇒クラスの保育士など、園の職員との密な連携が取りにくい。
- 園の職員の知識不足
⇒性教育を完全に保健センターの職員に委託しているため、園の職員が性教育の指導について学ぶ機会が無い。

作業課題③ 命の教育実践 についての考察

聞き書き調査、質問紙調査による 命の教育の効果

- 命の教育を通して子どもたちが愛されている安心感を持ち、自分と同じように他の子どもも大切な存在であることに気づいた。
- 授業を保護者が自由に参観できる園では、親子子どもへの愛情を再確認できた。
- 虐待が疑われていた家庭の子どもが、素直に保育者に甘えてくるようになった。
- 先生との関わりばかり求めていた子どもが、友達の中で遊ぶようになった。
- 「おしり」「おちんちん」など、ふざけて使う子どもが減った。

聞き書き調査、質問紙調査による 命の教育の課題点

- 園の職員で性教育の知識を持った者が少ない。
- 実践の参考となる例や資料が少ないため、実践が手探り状態。
- 子どもたちの心身の発達に個人差があり、一斉指導が難しい。
- 一人親家庭や児童養護施設などの子どもに対する配慮。
- 小学校との連携がとれていない部分が多い。

まとめ

- 幼児期の「命の教育」は、子どもたちが自分の存在意義を感じる上で効果的。
- 幼児期は性に対して抵抗がないため、性教育を実施しやすい。
- 子どもを通して親も愛情を再確認できる。

- 園の職員の知識不足など、指導体制が整っていない。
- 多様化する家族のあり方に配慮した指導が必要。
- 地域の小学校と連携をとり、継続した指導が必要。

<課題点を改善していくための手立て>

- 幼稚園教諭や保育士が「命の教育」についての理解を深め、実践をしていく。
- 園生活のさまざまな場面で地域との交流を深め、一貫した指導体制を整えていく。

終わりに…



ご清聴ありがとうございます。
ございました。